

令和7年度 第3回市川町総合戦略会議録

会議名	第3回市川町総合戦略会議
開催日時	令和8年3月4日(水)10時00分~11時50分
開催場所	市川町役場4階相談室
出席者	委員：小野康裕、藤田正広、井野健三郎、濱田崇広、村上和男、小西正弘 喜田美咲、吉田花梨、岩木和子、山下彰彦、石川伸也 町：津田町長、尾花副町長、木村企画政策課長、近藤地域振興課長 青木課長補佐、堀次係長
欠席者	委員：村田敏朗、中野大輝、中岡輝昭 町：岡本教育長
会議の議題	1.開会 2.あいさつ 3.協議 第3期市川町総合戦略 令和8年度事業の計画について 4.その他 5.閉会
会議資料	【事前配布】 ・次第 ・第3期総合戦略会議資料  【当日配布】 ・座席表
課長	皆さんおはようございます。 定刻より5分ほど早いですが全員お揃いですので、ただいまより第3回市川町総合戦略会議を開催いたします。 本日は委員の皆様におかれましては何かとご多忙の中、ご出席いただきましてありがとうございます。 開会に先立ちまして、町長から挨拶を申し上げます。
町長	皆さんおはようございます。第3回総合戦略会議にご出席いただき誠にありがとうございます。 今月は中学校の卒業式、こども園の卒園式、小学校の卒業式などひかえており、また一気に春らしくなってきました。 皆さんにおかれましては、この総合戦略会議に熱心にご協議いただきまして本当にありがとうございます。本日もよろしく願いいたします。
課長	本日は、中岡委員、村田委員から、欠席のご連絡をいただいております。また、岡本教育長が公務のため欠席でございます。 ・資料の確認 それでは早速ですが、会議次第の3.協議に入りたいと思います。 ここからの進行につきましては、小野委員長にお願いをしたいと思いますので

	どうぞよろしくお願いたします。
委員長	改めまして、おはようございます。それでは会議次第3の協議事項、市川町総合戦略、令和8年度事業の計画について、事務局から説明をお願いします。
課長補佐	説明
委員長	関連するところもあるので、一気に説明をしていただきました。質問、ご意見等々ございますか。
委員	公共交通運営事業でフリー乗降とありますが、基本路線の中で、でしょうか。
課長	公共交通のコミュニティバス、買い物バスのフリー乗降区間は、路線は今まで通りでございます。今までと同じ路線の中で、バス停とバス停の間でも手を挙げていただくと、そこから乗降できるという形に4月から変更を行います。
委員長	この区間は町道だと思うが、何割くらい？
課長	瀬加地区は下牛尾の河内でリフレッシュパークに行く道、川辺地区は北田中の村の中や小畑の町道、甘地地区は坂戸、奥、谷、一部小谷・近平、鶴居地区は澤・美佐が該当します。時刻表も変えているところですので、時刻表があれば分かりやすいかと思います。国道、県道、町道の交通量が多いところ以外になります。
委員長	利用する側も分かりにくいかも、不公平さはでないでしょうか。
課長	町道であればどこでも良いというわけでもありません。交差点から30m区間やカーブの途中、見通しが悪いなどの場所は、バスは停まれません。そのようなことは時刻表にも記載し、周知をして事故のないように努めたいと思います。
委員長	そうなれば便利です。
委員	利用される方には、分かりやすく発信していただきたいと思います。
委員	その件に関連して、運転手の確保が難しいということをよく聞くのですが、お客さんとの話の中で、寺家の奥からとか、岩戸から県道に出てくるまでがとか高齢者にとったら難しく、1週間に1本バスを小さくして村の中まで入れれば良いのと思います。難しいのはよくわかるのですが、あくまで提案としてお伝えさせていただきます。
課長	そういったご意見もいづらか町としても聞いております。バス停まで行けない、坂道で帰りが登れない、買い物袋を下げてバス停から家まで帰るのはしんどい等、そういった声を聞いております。ドア to ドアを検討しましたが、路線の変更が難しい状況です。何年かに一度は見直しをしたいと思います。デマンド交通予約型で、乗り合いタクシーのような形で、家の前まで迎えに来てくれるようなやり方をしている市町もございますので、参考にし、今後検討していきたいと思います。ご意見ありがとうございます。
委員	フリー乗降は、乗る時も降りる時もバス停じゃないところでも良いということでしょうか。予約の必要はありますか。
課長	予約はしなくてもよくて、運転手にわかるように手を挙げて示していただく形です。
委員	新規事業の農業総合対策事業で、交付額の基準が記載されているのですが、条件に縛りはありますか。

課長	<p>コロナ禍時にありました補助金と同じような内容にしておりますので、自由に使っていただけます。</p> <p>当初は農機具の購入に使っていただこうかと思っておりましたが、農家にも規模の大小があり、農機具を買うまでもないという声もありました。実績報告は必要ですが、肥料などの消耗品にも使えるような、農業に特化した補助金を考えています。</p>
委員	<p>先日、子育て会議で、ここ3年の園児数を聞きました。市川町において、こどものライフステージに合わせて、妊娠期から切れ目なくサポートする体制は強化されてきていて、保健センター保健師さんたちの工夫された細やかな健診や相談は進められていると思うのですが、実際、家庭で育児家事は女性がしています。子育てする中、2歳前後からイヤイヤ期が始まったら、親御さんたちはお手上げになり子育ての悩みが多くなります。日々子どもと接していく中、何を大切に子育てしたら良いのだろうと思ったり、自分の感情を子どもにぶつけてしまい後悔してしまったりする保護者もいます。今の市川町においても核家族が多いなかで、ワンオペ育児をしてしんどい思いをするなら二人目は無理ということをよく聞きます。日ごろ感じておられる子育ての困りごとを解決できるヒントを聞ける場所や相談窓口を、子育て支援センターで作っていただきたいと思います。</p> <p>もう一点、令和9年度からこども園が統合されますが、町として西こども園跡地の活用方法はどうかお考えでしょうか。</p>
副町長	<p>相談等は子育て支援センターでされています。それとは別で、保健福祉センターでおひさまカフェをしていましたが、令和8年度からはニーズを聞き、新しい形の子育て世代が集える場所を考えています。また、保健福祉センターも来年度設計し、再来年度は大規模改修工事をしますので、子育て世代が集える場所をつくれなにかということも設計に盛り込んでいく予定です。</p>
課長	<p>西こども園跡地利用は検討中です。</p>
委員長	<p>他市町と比べて施策が不足しているとは思わない。イメージの問題だけかなという気がします。子育て戦略に対するイメージをうまくくすぐって、出していくことの方が大事なのではないかと思います。教育情報が伝わってこないとか、神河町の方が子育てしやすいというイメージで負けてしまっているのが原因かなと思いますので、戦略に入れてもらいたいと思います。</p>
委員	<p>学校給食費助成事業の拡充とあり、軽減や無償化は町内と書かれています。私立に通う児童生徒は対象になりますか。また、0歳から高校生までの入院通院医療費の自己負担額を全額補助とありますが、他府県へ進学した場合や、他府県から通っている場合も対象になりますか。県外から通っていて卒業したら帰ってしまう生徒にまで助成するのはどうかと思います。</p>
町長	<p>町内に住民票がある場合は、対象にします。医療費助成も住民票がある場合が対象です。</p>
委員	<p>教育面で人口を増やすというのは、人材を増やさないといけないと思います。</p>

	<p>教育はすごく時間がかかることで、教育改革はその学校で得られる経験であったり学びの質を上げたりといったことが大事だと思います。給食費の負担はどちらかという短期的という感じがしていて、もちろん貧困でごはんが食べられないといった問題は大切だと思いますが、直接子どもたちの教育に関係することではないのかなと思います。人数が少なくなっているから、その学校での教育の質を上げるような柔軟性があれば良いのかなと思います。</p>
町長	<p>教育長がおりませんが、確かに他市町におきまして小中一貫校義務教育学校ができてきています。市川町は令和13年度までに町内小学校をひとつにする方向性を出していますので、その時に義務教育学校ができるかどうかは、現段階では不透明ですが今後視野に入れていきたいと思っています。</p>
委員	<p>もうひとつ、子どもや学生を市川町に留めておきたいという考えではなく、いったん外に出ていろんな知恵を得て帰ってきてほしい、やっぱり市川町が好きだから戻ってきたいという方を増やした方が、長い目で見れば町のためになり、活気も出てくるのではないかと思います。</p>
委員	<p>学校で独自性をもった教育ができればというところの関連で、小中学校では決められたカリキュラムがあり難しいと思いますが、高校は学校設定科目という科目がありますので、柔軟性を出すことができます。本校は地域探求クラスがあります。地域に入っているいろんなことを勉強させてもらったり、金融教育の一部もさせてもらったりと、我々教員も少子化を意識しないといけないと思っています。少子化のことであれば、結婚はこんなことで良いよ、ライフプランはこんな風にしていけば良いよなど、お金の面で柔軟に対応できるよう、外の力を使いながら、独自性を持った教育をやろうとしています。あと多いのが、発達障害を持った生徒も一定割合いますので、ソーシャルスキルトレーニングなどをして就労支援できるよう、柔軟に対応できていると思います。公立高校については、幅広い生徒を対象にしたものは、難しいかもしれないと思います。</p>
委員長	<p>義務教育は融通がききにくく縛りがあります。しかし、市川町は独自性を出して、思い切った発想がやはり必要だと思います。これから小学校が統合され、義務教育学校へと形が変わっていくのだらうと思うのですが、民間の発想からすると、市川高校さんの生徒数が減っており敷地の利用問題もおそらくあると思いますので、小中学校を義務教育学校として借上げ一貫した中で、その施設をシェアして運営していくといった特徴を出すというのは、非常に面白いと思います。教育関係は、制約のある中での話になると思うのですが、思い切った発想というのがこれからの時代に必要なのではないかと思います。</p>
委員	<p>二点お尋ねします。一点目は、移動式情報発信拠点「愛アンハート号」による交流人口の人数について、基準値が2,360人、目標値が3,000人というのは抽象的ではないか。二点目は、地域産業に触れる機会の創出ということで、ゴルフ体験としてサマースクールとあるのですが、小学5・6年生を対象にした小学校での体験はここに書かれていないのですが、これに含まれないのでしょうか。</p>

	<p>意見なのですが、私もハート号のお手伝いでゴルフ場に行ったことがあるのですが、これを結果として位置付けるのは難しい気がします。ゴルフ場だけでなく、いろんな市町に行ってPRすることで大きな効果になるのではないかと思います。市川町のイメージということで、トラックの上にはデジタルサイネージがあります。ゴルフ場では、主にゴルフアイアンなどをPRしていますが、他所の市町に行かれるときは、市川町は兵庫県の真ん中にあるハート型の町で、市川町ではこんなことをしている、来ればこんな特典があるといったようなことを紹介すれば、PR効果に繋がるのではないかと思いますので、検討していただければと思います。</p>
<p>課長</p>	<p>地域振興課からお答えします。交流人口の計数については、直接トラックで試打をしていただいた方や来られた方の人数、アンケートにご記入いただいた方をカウントしています。アンケートでは、市川町を知っていますか、ゴルフ歴何年ですかなどきちんととっています。また、トラックはゴルフ場だけでなく、大きなトーナメントや阪神オリックスの優勝パレード、高速のサービスエリアや市町のまつり、イベントなど関東地方までPRに行ったり、メディアに出演したりと、SNSでの発信を含めると何万人どころではない人数です。ただ、数値は直接関わった人数を計上しています。</p> <p>今後の展開として、動く小さな市川町というサブタイトルもついていきますように、ゴルフを軸にしていろいろところで発信していきます。来年度は、ゴルフ関係で地域おこし協力隊として来ていただく方がおられますので、いろんな自治体を巻き込んでつながりを広げていこうということを、今考えています。例えば、三木市は関西でゴルフ場が一番多い市ですので、ゴルフに来られるお客様は、ある意味市川町のゴルフ業者のお客様でもありますので、三木市のゴルフ場に市川町のブースを設けていただければ、市川町が発信しなくてもPRができる仕組みです。地域おこし協力隊の方と一緒に、PRに対して費用をあまりかけずに、知恵を絞って広げていきたいと考えています。大学や恋活イベントにも声がかかっていますので、これからもっと広がっていくと思っています。</p> <p>小学校のゴルフ体験については、人数はカウントしています。</p>
<p>委員長</p>	<p>この愛アンハート号について、私も商工会長として県内いろいろ行かせていただくのですが、それぞれからお礼の言葉をいただく機会が結構増えてきました。周知ができてきているこの事業を、KPIで出すというのは実際無理があるのかなと思いますが、民間企業でみると広告宣伝費にあたる部分になるので、今は甘んじてみていただかないといけない部分かなと思います。</p>
<p>課長</p>	<p>トラックが入れないところは、ゴルフネットや弾道計測器を持ち込んで試打会をしてPRをしに行っています。いま地域振興課では、いろんな地場産のPRで、どれほど売り上げが上がったかという数字をひらっております。各事業所さんに、市川町のPR（試打）で購入された方の金額と本数の数字を挙げていただいております、その数字を見ると効果もあがっております。</p>

委員	<p>突拍子もないアイデアかもしれませんが、廃校になった建物全体を使って、世代を超えてゴルフ体験をして、楽しさを知ってもらうのはいかがでしょうか。アメリカにパターゴルフのコースがあるのですが、いろんな障害物を作り家族で楽しむ施設があります。そのようなものは日本にあまりないと思いますので、そういう経験ができるのも面白そうかなと思います。</p>
課長	<p>ご意見ありがとうございます。そのようなことも町でも考えました。情報発信拠点として、いまのいちかわテラスにあるところに増設予定でしたが、市川町は41市町の中で観光が2番目に少ない町です。1番目は商業地の太子町です。観光客が一番少ない町で、そういったブースを設けてもなかなか来ていただけないだろう。パターゴルフについて、近隣でも数か所ありましたが、ゴルフだけというのは難しい部分があり、ほとんど閉まっています。体験していただくには、自分たちが出向いて行った方が良いということでハート号を整備した経緯があります。</p> <p>また、子どもの人数が減ってきていますので、子どもと一緒にということを出しても、集客するのは難しい時代になっています。そこで、いま考えているのが部活の地域移行です。市川町はゴルフの町なので、ゴルフ部を作っていないといけないと思います。廃校を活用してできればというのは、とても良い案で僕たちも考えてきたのですが、ゴルフだけというのは相当な費用がかかってしまう。一番ネックなのは予算です。例えば、市川高校さんと協力してゴルフ部が作れたら良いなと考えています。</p>
委員長	<p>子育ての部分は大きいですので、イメージはやはり大事だと思います。子育てされる方は、お金がかからず余暇村公園のようなところにわざわざ行かれるなど話を聞きますので、市川町のイメージ戦略にも、お弁当をもって1日遊べるようなスペース、文化センターの芝生広場も町の規制ばかりじゃなく、使い勝手が良いような、多少傷んでも使えるような政策が必要なのではないかと思います。そのようなイメージ戦略は、ある程度可能じゃないかという気がします。ぜひとも検討してください。</p>
委員	<p>今年度3回目の会議で、今更お聞きするのはどうかと思うのですが、この資料で予算が載っているのと載っていない事業があります。そもそもこの戦略を作るのは、国の地方創生推進交付金を獲得するために計画を作っているという理解でよろしいでしょうか。</p>
課長	<p>今は特にそういった縛りはありませんので、交付金をとるためだけの計画ではありません。</p>
委員	<p>なぜ、こんなことを聞いているのかと言うと、以前は交付金をとるための計画だったが今は違うといった時に、市川町として、地方創生戦略に使えるお金ってどれだけあるのか、全体像があまり見えない。例えば、事業をするのに町独自の財源と国の財源を使いながら、これだけの予算の中で事業をしていくのか、いやいや、やるべきことはこうだけれども、使えるお金はこれだけだから掲載している数字として使おうとしているのか、この戦略を作る時のお金の関</p>

	係というのは、どのように考えられているのでしょうか。
課長	総合戦略会議は今回で第3期になります。11年前から1期、2期と作っていて、その中でも人口減少に対応するような独自の事業や国の補助金を使った事業をしていたのですが、財政的には5年ごとに見直しをして、廃止する事業を作らないと新しい事業ができないのですが、5年たってもなかなかやめられない事業もあります。次の5年間も同じ事業をして、それプラス新しい事業を考えていきますので、財政自体も膨れ上がっていきます。やめる事業も考えていけないといけないのですが、財政としても地方創生にいくらという枠はつけていないので、町のトータルの予算の中で、戦略会議で提案しました事業を調整しているとうことです。
委員	対前年度比でどう組もうかというのが、実務的な作業ということになるわけですよね。
課長	基本ベースはそうなります。
委員長	ふるさと納税で稼いで、何とかカバーしたいということでゴルフ産業を前面に出しているのだと思います。
町長	今、会長が言われた通りでふるさと納税のおかげで何とか事業ができている部分があります。この部分を膨らませていけたら、もっと事業ができるんじゃないかということで、愛アンハート号で全国各地に、ゴルフアイアン発祥の地や日本一のタズミの卵などPRをしていってくれているおかげで事業ができています。町税を増やすには、住民が増える、企業が増える、といった二つしかないと思います。そういった中で、ふるさと納税制度を使い事業を考えていきたいと思っています。
委員	ふるさと納税に取り組んでいることが、結果として数字で見たときに増えているのであれば、すごく大事な要素だと思いますし、それを増やしていくことで自主財源を確保するのは、どこの自治体もですがやっていけないことだと思います。ただ、ふるさと納税に頼りすぎると、ちょっと問題が発覚した時に、たちまちどうしようということになる可能性もありますので、しっかりとしていけないといけないと思います。いま申し上げた通り、そこはどんどん頑張っていかなければいけないのかなと思います。
委員	稼げる地域産業を作るということで、有機農業の推進、取組の拡大を図るため、まちこネギの販売に愛アンハート号に来ていただいて、大いに貢献していただきました。地域おこし協力隊というのは、ほとんどの市町で募集をかけています。市川町では、まだ見つからないということを目にしました。笠形オーガニックの地域おこし協力隊の方の任期があって、継続してもらえるのかということに不安を感じています。現在、地域づくり協議会というのがありますが、任期が終わるとまたりセットされてしまうという、試練を迎えている状況です。
課長	元々、笠形オーガニックファーマーズというのは、地域の方と一緒にあって、その地域を盛り上げていく、地域に自立してもらうことをコンセプトとして取

	<p>り組んだものですが、どういうわけか役場がやっていることでしょ、といった形になっていました。それをここ3年ほどで修正をして、地域おこし協力隊の方向性を変えてきたのですが、応募は今のところありません。全国で地域おこし協力隊の制度を活用されていますが、地域おこし協力隊は、街から田舎にという考え方の制度です。毎月のオーガニック体験で、こういった制度を活用して市川町に移住し、オーガニックを本格的にしてみませんか、という声かけや、姫路や神戸で農業者の募集もしていますが、応募者がいないというのが現状です。元々、地域で地域を盛り上げようというのが目的で、制度を活用しただけです。また、持続可能な有機農業の推進というところで補助金の掲載があります。国の農水省が2050年にはオーガニックの農作物を25%まで増やそうと掲げていますが、実際は現状1%にも満たしていません。当初は令和5年度からの補助金を徐々に減らし、令和7年度で補助金が打ち切りの予定でしたが、なかなかオーガニックは進まない中で、40年以上にわたり市川町でオーガニックをされている方がいますので、そこを広げていく、地域を活性化することで、令和7年度で打ち切りであった補助金を、国の方針もありますので引き続き予算をつけていただいています。</p> <p>地域おこし協力隊について、募集に関しては窓口を開けて随時延長していますが、必ずしも地域おこし協力隊が必要というわけではありませんので、良い人がおられないのであれば、いったん終わっても良いかなと考えています。今まで4名に来ていただきましたが、人材的に難しい部分や、住所を移して儲からない農業に取り組んでというのは難しいです。全国的に地域おこし協力隊はありますが、そこに住み続けているのは40%に満たなかったと思います。ふるさと納税にばかり頼らないでというのと同じで、地域おこし協力隊にばかりしがみつくなではなくて、やはり地域活性化は地域でというコンセプトを重視していこうかと思っています。</p>
<p>委員</p>	<p>言われることは分かります。市川高校の先生がおられるので申し上げます。連携して作ったネギコロッケは行列ができるほど飛ぶように売れるのですが、コロッケを揚げるのに間に合わない、残念ながら人材が育っていないということです。私も地域で区長をしていますので、今からが試練やということは、会議の中でも言っています。しかし、地域おこし協力隊がメインになって、その人に関わるという人が地域におりません。育っていないというのはそういうところですね。地域おこし協力隊がどんなふうに関わりをされたのかなと、疑問に感じました。先ほど課長が言われたことは分かりますが、地域からすると引っ張ってもらう意識がすごく強いので育たないです。誰がリーダーなのか、このままだと市川高校さんとの連携もできなくなるのではないかと思います。</p>
<p>課長</p>	<p>本来、これは町が主導で動くものではございません。あくまで地域です。これまでは、笠形オーガニックファーマーズの会長は、上牛尾の区長さんにずっと</p>

	<p>担っていただいていた。そのために、役場がしているんでしょというスタンスになっていましたが、それを払拭するために充て職ではなく、もう3年になりますが、地域の方に会長になっていただいております。また役場OBが事務局としていますので、地域おこし協力隊がいないと成り立たないというわけでもありません。地域に既にありますので、新しい方を呼んでその人を育てるというのでは、ないのかなと思います。</p>
委員	<p>私も区長になって初めて知ったわけですが、体制が変わって引継ぎができていないというのは事実です。地域に根差していないところがあって、ジレンマを感じており、このままだとあかんと思います。</p>
委員長	<p>30万円で中小企業診断士を入れたら良い、経営ができていないと思います。</p>
課長	<p>これはなかなか難しい話でして、オーガニックを習いたいと町外から移住された家族がおられて、地域おこし協力隊の代わりに担っていただいています。また、先ほど企業診断士のお話があり、経営が成り立っていないというのはもちろんなのですが、先ほどの家族含め、何家族かおられるなかで、その方たちをまとめようとしたのですが、まとまらないんですよ。皆さんこだわっているところが違い、個人プレーですので、ひとまとめにするのはかなり難しい状況です。例えば、愛アンハート号で皆さんの農作物を売りましようかと言っても、結構ですと言われる。そこは、行政が介入するところではないのかなとも思います。笠形オーガニックファーマーズは地域でしていただくもので、町はあくまでサポート、最初の取っ掛かりは補助金を使ってさせていただきましたが、高校生との関係とかは、もう根付いているものはあると思っています。今は、活動されていた方が高齢化してきていますので、協議会として若い方に引き継いでいただくことになるのかなと思います。</p>
委員	<p>そういう意識改革をしないと駄目やと思います。</p>
副町長	<p>オーガニックの農業体験を経験したいと言われる方は、何年も通われている方もいらっしゃいます。その中で、まちこネギをするのですが、作付面積が広がらないというのは、地域おこし協力隊が広げないというのではなく、まちこネギが美味しいので地域で作り広げましよう、市川町の産業にしようという動きがないといけないのかなと思います。基本目標1に、稼げる地域産業をつくるというテーマを掲げていますので、これからの5年間、10年間に地域ブランドとして取り上げて良いのかなと思います。非常に美味しいのは知っているのですが、まだ外に出ていませんので、作付面積を広げ、他に負けないものを作ると、稼げる農業が目指せると思いますし、農業者も育ち、オーガニック農業も活性化していくのではないかと思います。そのように計画を立てていますので、これから先、そういう弾みのある農業基盤とした農業を作っていきたいと思っています。</p>
課長	<p>地域おこし協力隊は後継者を作るものではありません。市川高校のコロッケも美味しくて大人気ですが生産が追い付いていません。先ほどのまちこネギと同じで、大量には対応できません。需要と供給のバランスを考えないといけなく</p>

	て、いくら人気があっても、良いものであっても、人に知られていなかったら広がらないです。それはゴルフも同じで、良いものがあっても一人も知らなかったら無いのと同じです。どうやって知っていただくか、費用も必要で難しいところですが考えていきます。
委員長	オーガニックのイメージがそれぞれあって、有機農業をされていてオーガニックをしているという感覚ではないと思います。そもそも有機農業や自然農法というのは生活スタイルであって、販路拡大という発想ではないところに、笠形オーガニックファーマーズという形で立ち上がりました。経営的にしていこう、これを町の産業にしていこうといったことではなかったと思いますので、難しいのかなと思います。 私も園芸の仕事をしていますので、断れないところだけ園芸教室をしています。神河町さんの教室は満席状態がずっと続いています。それは、ぼかし肥料の講座をしっかりとしていますので、有機で家庭菜園ができるから勉強したいという流れです。結局は、町全体をオーガニックのイメージでしようと思うのであれば、家庭菜園や今の生産者が少しでも有機の肥料材料を使った生産ができるシステムを作ってあげれば、ある程度広がりが出てくると思います。地域限定であれば、方向性に無理があるのかなと思います。
委員	ごみ処理場ができれば、どれくらいの雇用がうまれるのでしょうか。
町長	神河町のクリーンセンターでは、30人くらいの規模です。同じくらいの雇用があると思いますが、クリーンセンターで働かれていた方が一部こちらでも働かれると思います。まだ詳細は決まっていません。
委員	私、北部クリーンセンターの環境監視委員会の副会長で、会議の中でそのような話を出すのですが、今後は3町ですることになりますので、ゴミの集め方ひとつにしてもいろんな問題があります。人口比率で、お金の出し分が違うので、いろいろな調整はこれからだと思います。はっきりとした数字は出せないと思います。
委員長	省エネ家電買替購入支援事業で、税込み5万円以上と記載がありますが工事費は含まれますか。
課長	工事費込みです。昨今、暑さ対策もあり、省エネプラス熱中症対策の意味も込めての事業です。
委員長	工事費は、町外業者でもでる？
課長	はい。多分ネットとかの注文はダメで、電気の量販店での購入になります。
委員長	商工会長の立場としては、量販店で購入となると、お金が町外に流れてしまい循環しないので、できるだけ町内業者を利用させていただきたいと思います。
委員	周知はいつ頃になりますか。
課長	この物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金対応の事業は、令和8年度から4事業します。3月議会で案が通れば、間に合えば、早くて4月広報のチラシ折込みをしたいと思います。それぞれの事業で申請時期は違いますので、記載したものの周知を行いたいと思います。

令和7年度 第3回市川町総合戦略会議録

	省エネ家電につきましては、担当課は住民環境課で、諸々の準備等を含めて、開始はおそらく5月下旬か6月と聞いています。受付を開始してからの購入が対象になりますので、早く周知をしないといけないと思います。
委員	家電に絞った理由は何ですか。サッシも省エネになるのでは？
課長	国交付金の推奨メニューで家電にしています。
委員長	これで協議については終わらせていただいて、その他事務局から何かありますか。
課長	今日お配りした資料につきましては、あくまでこの会議資料です。振興計画審議会にて策定します総合計画と総合戦略を一体化したものを冊子にして、4月以降になるかと思いますが、完成したものを委員の皆さまにお配りしたいと思います。
委員長	それでは、事務局にお返しします。
課長	小野委員長、進行をどうもありがとうございました。 閉会にあたりまして藤田副委員長から挨拶をいただきたいと思います。
副委員長	失礼します。長時間の会議に出席いただきましてありがとうございました。総合戦略会議について、各委員さんにはたくさんの提言やご意見をいただいたことに、感謝申し上げます。ひとつひとつの政策について、意見を出せる時間はいくらあっても足りないと思います。ただ、人間が集中する時間というのは決まっています、15分、45分、90分の法則がありますので、今後は90分ぐらいにしてもらえないかというのが、私の最後の提言です。 ちょっと感想として申し上げて、本日の閉会の挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。
課長	今年度の総合戦略会議はこれで終了となります。今の委員さんにつきましては、令和6年度・令和7年度の2年間の任期ということで、本日をもって任期が終了となります。2年間、いろいろとありがとうございました。この度作成します総合戦略について、人口減少対策や地域活性化に向けて5年間頑張っていきたいと思いますので、またご指導やご助言がありましたらお願いしたいと思います。 2年間、本当にありがとうございました。おつかれさまでした。